

予防接種

1974年に予防接種拡大プログラム(EPI)が開始されてから、予防接種によって防ぐことのできる6つの病気 - ジフテリア、はしか、百日咳、ポリオ、破傷風、結核 - の予防接種普及率が、5%以下から2004年にはおよそ80%にまで上昇しました。

2004年、推定2,700万人の乳児が三種混合(DPT3)ワクチン—ジフテリア、百日咳、破傷風—の予防接種を受けていません(出生5人あたりひとりの割合)。また、予防接種によって防ぐことのできる6つの病気によって5歳未満の子ども推定140万人が、肺炎とロタウィルス(現在ワクチンを開発中)でさらに110万人以上が亡くなっています。

2003年に行われた予防接種によって、200万人以上が予防可能な病気から守られ、さらに60万人が、(子どものうちに予防接種を受けられたことにより)成人期に感染するといわれるB型肝炎に関わる病気によって命を失わずにすむといわれています。

このような成果の一方、2003年は、1歳未満の子ども2,700万人、妊産婦女性4,000万人は必要な予防接種が受けられませんでした。

予防接種に関する基礎データ

- ユニセフは、ワクチン調達・供給および予防接種事業の中心的な国際機関である。2005年、ユニセフは開発途上国の子どもの40%にあたるワクチン(4億3,000万米ドルの支援に相当)を調達

資金調達

- 2006年から2015年、年平均10億米ドルの資金により、子どもと妊婦が予防接種を受けられ、1,000万人の命が守られる。現在、最貧国での予防接種事業は25億米ドルで行われているが、2010年までに35億米ドル、2015年までに40億米ドルの追加資金が必要
- GAVI(ワクチンと予防接種のための世界同盟)の支援を受けている72の最貧国において、予防接種にかかる費用は、2000年は子どもひとりあたり2.5米ドルであったが、2005年には5米ドル以上に倍増した

その他の予防接種

- 世界的な三種混合ワクチン(DPT3)の予防接種率(1年間の定期予防接種普及率の指標)は、1990年の75%にくらべ、2004年には78%に達した。
- 開発途上国の子どもの17%は結核の予防接種を受けていない
- 開発途上国のおよそ4人にひとりの乳児は、はしかの予防接種を受けていない
- B型肝炎の予防接種を受けているのは世界で55%の乳児のみ。開発途上国では46%の乳児がB型肝炎の予防接種を受けていない
- 開発途上国の新生児のうち破傷風の予防接種を受けているのは69%のみ

(2007年4月)